

## 次年度の課題その4 6学年での地域貢献総合学習を集大成とする地域連携カリキュラム

本県では、昨年度から全ての学校に地域連携カリキュラムの策定を求められており、本校でもついに完成しました。(裏面)

これは、6年間でどのように地域と連携して地域の子どもの教育を進めていくのかを、一目で分かるようにしたものです。

本校でも地域の人・もの・ことを活用した地域連携学習は数多く行っています。しかし、どのような学習をしているのかは、その学年の教員しか分からないことが多く、全職員はもとより、保護者、地域の方々は知らないというのが現状でした。

このような一覧にまとめることにより、今後、地域連携学習が一層進められると期待しています。

この表の作成は、手嶋教頭先生が中心に、地域連携支援員の浦さんとともに作成しました。お二人の尽力に感謝します。

本校のカリキュラム表には、他の学校にない工夫があります。裏の表では分かりませんが、エクセル画面上でそれぞれの活動をクリックすると、その活動の目的、連携先等の情報が詳しく見られることです。各学年に依頼して描いてもらったことをここに記入しています。

ところで、本校の地域連携カリキュラムにはまだ大きな課題があります。

その一つは、ここに掲載されている諸活動は実に多様で素晴らしいものなのですが、カリキュラムに必要な「系統性」が見えないことです。

現時点の表は、単なる一覧表であり、この表に系統性を加えて初めて本物も「カリキュラム」となります。

その学年、その学年で、どのような分野を学んでいるのかを表に加えていくことだけでも系統性が見えてきます。

そして何よりも、これらのカリキュラムの最終の姿を示すことが大切です。

本校での地域連携カリキュラムは、最終的に何に向かって学習を積み上げていくの

か、最後には、どのような子どもになってほしいのか。それを示せばカリキュラムは完成です。

それが、6学年での地域貢献学習だと考えています。昨年度末に示された、新しい本年度の総合的な学習の時間の全体計画には、控えめですがそれが示されています。

5学年までに、吉敷地域の自然環境の特徴(良さ・災害等の課題)、地域の方々との交流、福祉(高齢者・障害のある方々等)、健康課題等について多様に学び、それらの集大成として、6学年で「今私たちにできる地域貢献」として、主体的に考え、できることを実践する。

この学習は、個人学習とすることが良いと考えます。一人一人で、それまでの学びから、最も感じることの多かった分野をもう一度まとめ直し、自分でできることを考え実践する。もちろん、途中から「同土」を募って協働することも良いでしょう。

このような集大成の場の設定は必要不可欠です。前号の主体性の伸張でも触れたように、その場を与えないと育てることはできません。

本年度の6学年の総合単元「卒業プロジェクト」では、地域貢献を少し進める予定でしたが、新型コロナ問題で実施できませんでした。しかし、求めたい地域貢献学習は、さらに踏み込んだ、地域貢献に特化した30時間程度の単元学習です。本年度4学年が行ったような、本来の総合的な学習の時間の学びの在り方で進めてほしいと思っています。

地域連携カリキュラムの課題の2つめは前通信にも書きましたが、防災教育です。防災教育は今の時代だからこそその必須テーマです。このテーマに真剣に取り組まないと地域カリキュラムは完成しません。次年度からの充実した学習に期待しています。

地域連携カリキュラムのマネジメントは、新学習指導要領の求める「カリキュラムマネジメント」そのものです。